（様式）

令和３(2021)年度　新技術導入経営改善実証展示ほ　成果情報

いちご新品種「とちあいか」の作型別の生育及び収益性について

要約

とちあいかは、普通夜冷作型において年内から安定した収量を上げることが可能であり、高い収益性が見込める。更にポット作型を組み合わせることで、収穫期間を通じた収量の安定化による収益性の向上を図ることが可能である。

○ 展示のねらい

とちあいかの作型別の生育及び収益性について明らかにする。

供試区①：普通夜冷処理（すくすくトレイ 24 穴）

供試区②：無処理（すいすいポット）

対照区：　無処理（すくすくトレイ 24 穴）

○ 主な成果

・供試区①は、夜冷処理により年内収量が対照区より高かったが、総収量は対照区と概ね同程度だった（表２）。

・供試区②は、頂花房と１次腋花房の花房間葉数が 1.1 枚と少なく、１次腋花房の収穫開始が早かったことから対照区より年内収量は高かったが、総収量比は 82 と対照区よりやや少なくなった（表２）。

表１　花房別着果数（果数/株）及び花房間葉数（枚/株）、総花房数（本/株）

処理区	頂花房	1次腋花房	2次腋花房	合計	着果数比	花房間葉数		総花房数
						頂～1 次	1 次～2 次	
供試区①	5.9	14.7	13.6	34.2	100	3.4	2.9	15.0
供試区②	5.6	10.2	13.0	28.8	84	1.1	3.1	20.2
対照区	8.5	14	11.8	34.3	－	5.5	3.0	14.3

表２　月別収量（kg/10a）

処理区	11 月	12 月	１月	２月	３月	４月	５月	合計	収量比
供試区①	530	509	1,283	1,705	1,782	1,455	1,335	8,599	102
供試区②	424	791	853	1,117	1,320	1,027	1,405	6,936	82
対象区	445	494	1,351	1,799	1,409	1,403	1,529	8,430	－

○ 今後の方向性

とちあいかの栽培面積を拡大するに当たっては、普通夜冷などにより作型を複数に分散することで、安定出荷や労力分散につながり、経営面のメリットが高まる。

また、とちあいかは、無処理作型でも 11 月中旬頃から収穫が可能であるため、夜冷施設を導入していない生産者や新規栽培者が導入することで所得向上を図ることが可能である。

実施機関 ： 上都賀農業振興事務所経営普及部　　実施場所 ： 鹿沼市

問合せ先 ： 栃木県農政部経営技術課技術指導班　TEL 028-623-2322　FAX 028-623-2315